

1 調布市の概要

(1) 調布市の位置

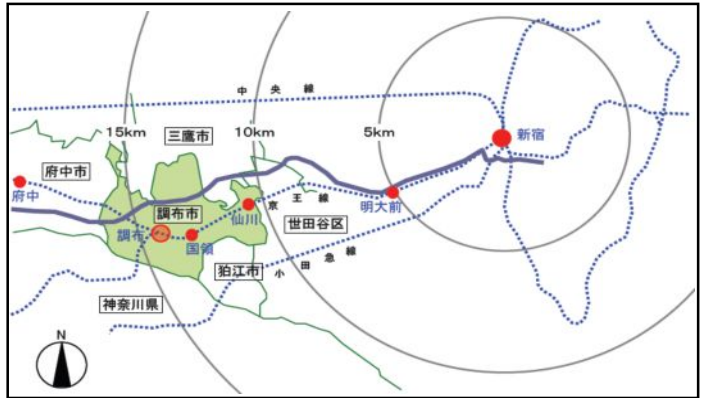
調布市は、新宿副都心から約15km 圏内に位置する人口約22万人の都市です。市域の北側は三鷹市、小金井市、東側は世田谷区、南側は狛江市及び多摩川をはさみ稲城市・神奈川県川崎市、西側は府中市にそれぞれ接しています。

市域は東西約7km、南北約5.7km、面積は21.53km²となっています。また、市中央部を東西に京王線が走り、これに沿うような形で市街地が連なっています。

市中央部に位置する調布駅は、新宿駅から特急を利用した場合、約15分で到着でき、通勤、通学の利便性が高いです。また、1日の乗降客数は京王線において新宿駅に次ぐ2番目の1日当たり11万人強であり、本市の中心駅となっています。

一方、道路交通では、中央自動車道及び国道20号（甲州街道）が市中央部を東西に横断し、その交差部に調布インターチェンジがあります。

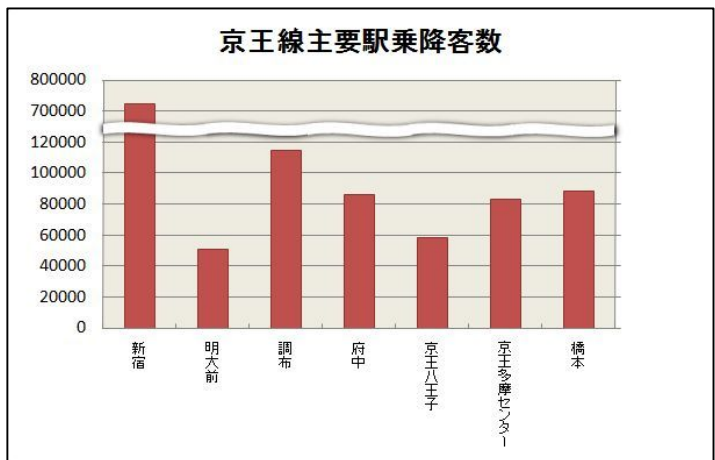
以上のとおり、本市は交通利便性に恵まれた立地特性を有しています。



〔図〕広域的な位置



〔図〕調布市全域



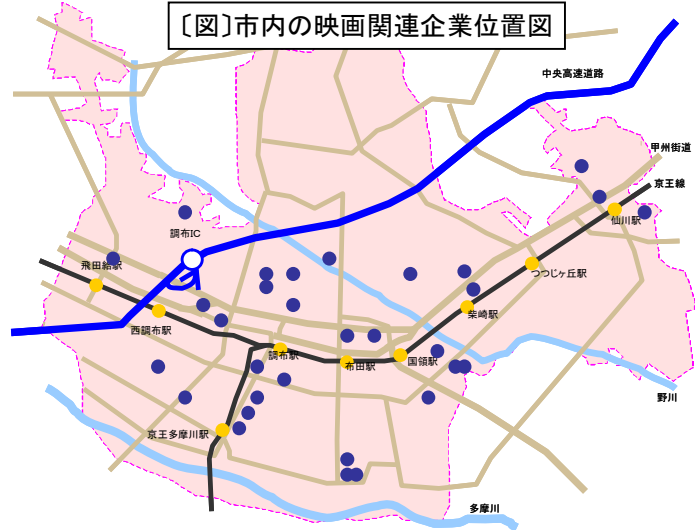
〔図〕京王線主要駅乗降客数（平成22（2010）年）

(2) 調布市の沿革

江戸時代の甲州街道（現：旧甲州街道）の開通に伴い、宿場が置かれたことで、現在の市街地の原型ともいえる町が形成されました。その後、明治 22（1809）年には、上石原村と飛田給村などが合併し調布町となり、深大寺村と金子村などが合併し神代村が誕生しました。

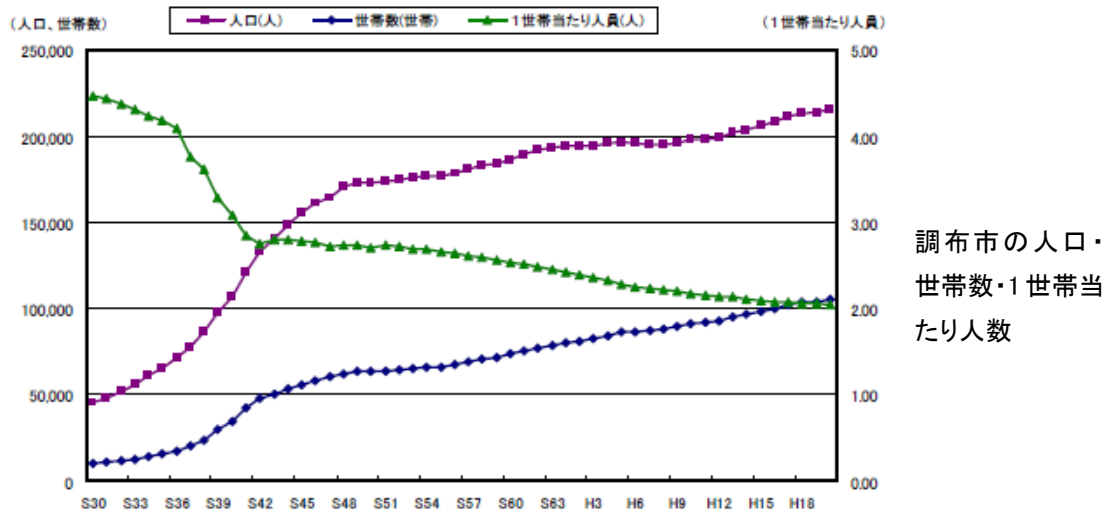
大正 2（1913）年に調布～笹塚間の全長 12.2km を結ぶ京王線が開通したことによって、沿線の宅地化が進み、東京郊外の住宅地・別荘地として脚光を浴びるようになりました。

昭和 8（1933）年に多摩川撮影所（現：角川大映撮影所）が設立されて以来、映画関連事業所の集積が進み、昭和 30 年代には「東洋のハリウッド」と称されるほど映画のまちとして発展を遂げました。現在でも 40 社以上の映画関連企業が立地しており、映画やテレビドラマ等の撮影や制作が盛んに行われています。



昭和 27（1952）年には、町制施行により神代村が神代町になり、昭和 30（1955）年には、調布町と神代町が合併し、現在の調布市が誕生しました。その後の高度経済成長に伴い、都市化が急速に進み、人口は市制施行当時の約 4 万 5 千人から、昭和 39（1964）年に 10 万人、昭和 44（1969）年に 15 万人を突破しました。昭和 60 年代に入ると人口増加は緩やかとなったものの、平成 12（2000）年には 20 万人を突破し、平成 24（2012）年 1 月 1 日時点で 22 万 2 千人となっています。

近年のトピックスとしては、調布市がドラマの舞台となった NHK 連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」（平成 22（2010）年 3 月～9 月放送）を契機として、多くの来街者で賑わいました。



(3) 調布市の地域資源

① 映画・映像関連資源

市内には、昭和8(1933)年に日本映画株式会社によって多摩川撮影所(現在の角川大映撮影所)が設立されて以来、数多く映画・映像関連の事業所が集積し、「映画のまち調布」として知られています。

昭和30年代、日本映画の黄金期を支えた本市は「東洋のハリウッド」と呼ばれ、多くの映画スターを輩出しました。多摩川五丁目児童遊園には、映画スターの名が刻まれた「映画俳優の碑」が建てられています。

平成元(1989)年には、映画産業の振興と芸術発信都市を目指し、市主催の「シネマフェスティバル・イン調布」を実施しました。現在は「調布映画祭」として、公募市民からなる実行委員会がその企画・運営を担っています。

平成20(2008)年度からは、世界三大映画祭の一つであるベルリン国際映画祭の児童部門の協力を得て始まった「キンダー・フィルム・フェスティバル」が調布市において開催され、多数のメディアで報道されています。また、平成21(2009)年度にはカナダ・ケベック州の「ケベック映画祭 2009」の開催を契機に、これらの映画祭に併せて、物産展の開催や入場割引券を商店会で配布するなど、地域資源である映画と中心市街地の商店会とを結びつけた活性化事業を展開しています。

さらに、平成22(2010)年度から、日活芸術学院と中心市街地の商店会とが協力し、商店会コマーシャルフィルムを制作しています。このCMは、上記映画祭やまちなかにおいて放映されており、映画産業と地元商店会双方のPRに役立っています。

また、漫画「ゲゲゲの鬼太郎」の作者である水木しげる先生が名誉市民となっており、水木プロダクションも市内に事務所を構えています。平成22(2010)年3月から9月まで、NHK連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」が放送され、「ゲゲゲの〜」が流行語大賞となるなど、ドラマの舞台となった調布市は全国的に注目されました。



映画俳優の碑



角川大映撮影所

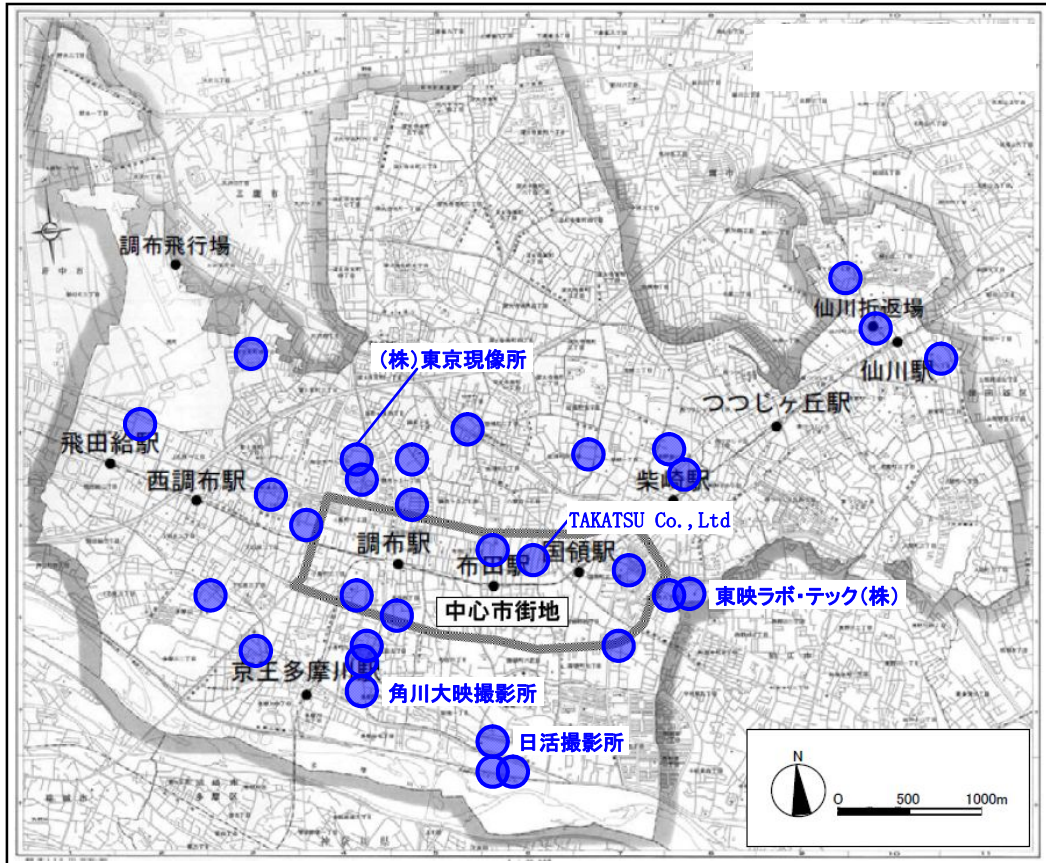


日活撮影所



キンダー・フィルム・フェスティバル

キンダー・フィルム・フェスティバル



主要な映画・映像関連施設



市内商店街にある「ゲゲゲの鬼太郎」妖怪オブジェ



調布市観光案内所「ぬくもりステーション」

調布市内における映画に関する歴史

区 分	主 な 出 来 事
昭和 7(1932) 年	・京都・東活映画社から派遣された本多嘉一郎氏（のちの調布市長）が撮影所建設候補として調布を視察。
昭和 8(1933) 年	・東活映画社が母体となった日本映画株式会社が多摩川撮影所を設立。
昭和 9(1934) 年	・日活の東京進出と同時に、高津小道具店が東京営業所（現在の TAKATSU Co.,Ltd）を開設。
昭和 17(1942) 年	・戦時下の映画会社統制により、日活の製作部門は新しく設立された大日本映画製作株式会社に吸収される。多摩川撮影所は大映東京第二撮影所となる。
昭和 20(1945) 年	・大日本映画製作株式会社が大映株式会社に名称変更、撮影所は大映東京撮影所となる。
昭和 26(1951) 年	・日本色彩映画株式会社（現在の東映ラボ・テック株式会社）設立、カラーフィルムの現像が始まる。
昭和 29(1954) 年	・日活が下布田（現在の染地）に用地を取得し、日活撮影所を開設。 ・現在の多摩川一丁目に中央映画撮影所開設。独立プロの名作が次々と生まれる。
昭和 30 年代 1955 年頃	・株式会社東京現像所設立。映画界がカラーフィルム主流に変化。 ・調布は「東洋のハリウッド」と呼ばれ、日活・大映ともに多くのスターを輩出。
昭和 50(1975) 年	・日活芸術学院開校。
昭和 53(1978) 年	・有限会社マリンプスト（VFX 制作会社）創業。
昭和 61(1986) 年	・株式会社白組が調布スタジオを建設。 ・日本映画俳優協会が創立 35 周年を記念して「映画俳優の碑」を建立。
平成元(1989) 年	・「シネマフェスティバル・イン調布」開催
平成 5(1993) 年	・調布市映像まつり実行委員会が多摩川五丁目児童遊園に「調布映画発祥の碑」建立。
平成 7(1995) 年	・（財）調布市文化・コミュニティ振興財団主催の市民映画会（現在の調布シネサロン）が始まる。
平成 9(1997) 年	・調布映画祭において、実験映画コンペティション（現在のショートフィルム・コンペティション）が始まる。
平成 14(2002) 年	・大映の全事業が徳間書店から角川書店に移り、大映が 60 年の歴史を閉じる。
平成 16(2004) 年	・大映撮影所が角川大映撮影所と改称。
平成 17(2005) 年	・調布市制 50 周年記念事業として高校生フィルムコンテスト開始。
平成 20(2008) 年	・キンダー・フィルム・フェスティバルが調布市で開始。
平成 21(2009) 年	・ケバック映画祭開催。
平成 22(2010) 年	・調布市を舞台とした NHK 連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」放送。続いて同映画上映。
平成 23(2011) 年	・「ゲゲゲの女房」舞台公演。 ・角川大映撮影所 Dスタジオ完成。
平成 24(2012) 年	・日本映画批評家大賞授賞式・上映会の開催。 ・日活撮影所 創設 100 周年。

② 特色ある観光資源

都心に近いながらも緑豊かな自然環境と様々な観光資源を有しています。

東部地域

世界的に著名な指揮者小澤征爾氏をはじめ多くの音楽家を輩出している「桐朋学園」があり、学内やまちなかで様々なコンサートが行われています。また、世界的に有名な建築家・安藤忠雄氏が設計した「調布市せんがわ劇場」「東京アートミュージアム」等が並んでいる、通称「安藤ストリート」があります。さらに、明治末期に雑誌「白樺」を創刊した白樺派の文豪「武者小路実篤」が過ごした邸宅跡が現存し、現在は「実篤公園」「武者小路実篤記念館」となっています。

このように、東部地域は芸術文化の薫るまちとなっています。

西部地域

サッカーJリーグの「FC東京」のホームスタジアムであり、収容規模5万人を誇る「味の素スタジアム」があります。サッカーの試合のほか、様々なアーティストによるコンサートや、各種イベントも実施され、大勢の来訪者で賑わっています。平成25年(2013年)には、この味の素スタジアムを拠点として、「スポーツ祭東京2013(第68回国民体育大会及び第13回全国障害者スポーツ大会)」が開催されます。

隣接する「調布飛行場」は、本州と伊豆諸島を結ぶ離島航空路線の拠点となっています。毎年秋には「飛行場まつり」も開催され、大勢の来訪者で賑わっています。飛行場を眺めながら食事を楽しめるカフェもあり、観光スポットとなっています。

また、新選組局長の近藤勇の生家跡があります。

南部地域

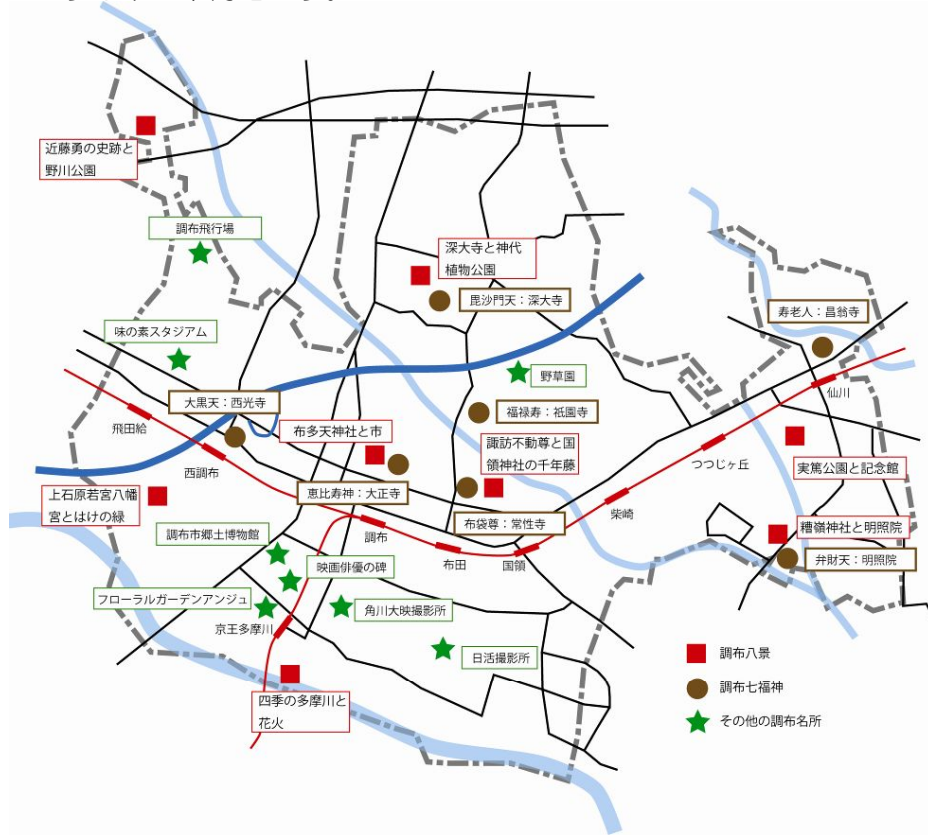
東京都と神奈川県の間であり悠久の流れをたたえる「多摩川」が流れています。「多摩川」は、水と緑の癒しスポットとして、週末には多くの市民の憩いの場となっているほか、映画・テレビ等のロケが行われたり、「もみじ祭り」等のイベントも実施されています。例年夏には、市内外から約35万人の来客で賑わう「調布市花火大会」が開催され、夏の風物詩となっています。

また、国内外で活躍する芸術家の彫刻作品を展示した「彫刻のある散歩道」もあります。さらに、バーベキュー施設を備えた欧風庭園「京王フローラルガーデンアンジェ」や、「東京オーヴァル京王閣」があり、余暇を楽しむ人で賑わいをみせています。

北部地域

武蔵野の面影を残す深大寺自然広場等があり、近郊にありながら癒しの自然散歩スポットとなっています。奈良時代に建立され、関東屈指の古刹「深大寺」があり、四季折々のイベントを開催しています。門前には「深大寺そば」の専門店が立ち並び、多くの来訪者で賑わっています。また、「深大寺」に隣接して、都内最大の広さを誇る「都立神代植物公園」があり、四季を通じて様々な緑や花を展示するほか、バラフェスタやジャズコンサート等のイベントも実施しています。周辺には「深大寺城跡」「深大寺温泉ゆかり」「深大寺水車館」「都立水生植物園」もあり、毎年100万人程の来訪者が訪れる代表的な観光地となっています。

以上のように、市内全域に多くの観光スポットがあり、多くの来訪者で賑わっています。これらの特色ある観光スポットを回遊するための発着点となるのが、調布駅をはじめとする中心市街地です。



観光スポット（出典：調布市観光ビジョン）



味の素スタジアム



深大寺



多摩川



通称「安藤ストリート」

③ その他文化的資源など

映画・映像関連資源や観光資源のほか、市内では文化的活動や地域のおまつりが盛んです。古くから行われているこれらのイベントには市内外から毎年多くの人々が訪れており、市の重要な地域資源となっています。

主要な祭り・イベント等

区分	イベント名称	主な開催場所
1月	消防団出初式 調布七福神めぐり 調布市民駅伝競走大会	多摩川河川敷 市内 市内中心市街地エリア
2月	樟まつり 深大寺節分会 布多天神節分祭 人形演劇祭 'inochi'	文化会館たづくり、グリーンホール 深大寺 布多天神社 調布市せんがわ劇場
3月	調布観光フェスティバル（物産展） 調布映画祭 深大寺だるま市	調布市役所前庭 文化会館たづくり・グリーンホール 深大寺
4月	野川の桜ライトアップ	野川河川敷
5月	なんじゃもんじゃコンサート	深大寺
7月	鬼燈まつり 朝顔まつり JAZZ ART せんがわ 調布市花火大会	深大寺 蓮慶寺参道 調布市せんがわ劇場 多摩川河川敷
8月	キンダー・フィルム・フェスティバル 調布よさこい 盆踊り 野川灯籠流し 夕涼みの会	文化会館たづくり他 調布駅前広場・旧甲州街道 市内各地 野川 深大寺
9月	布多天神社例大祭 セプテンバーコンサート 十五夜の会 じんだいフェスタ もみじ祭り	布多天神社・旧甲州街道 深大寺他 深大寺 神代植物公園 多摩川河川敷
10月	妖怪検定 調布市商工まつり 調布市民スポーツまつり 調布飛行場祭り 市民文化祭	電気通信大学内 調布市役所前庭 味の素スタジアム 調布飛行場 文化会館たづくり他
11月	深大寺そばまつり 市民文化祭 農業まつり	深大寺 文化会館たづくり他 調布市役所前庭
12月	福祉まつり 布多天神歳の市 クリスマスイルミネーション	調布市役所前庭他 布多天神社 駅周辺、旧甲州街道他

（歳時記にまつわるものや広く一般参加ができるもののみを記載。開催年により変更あり。）